

## 日本小児科学会より

### 「奇形」を含む医学用語の置き換えの提案

#### 【趣旨】

臨床の現場で患者・家族への説明を行う際に、「奇形」という言葉は非常にきつい響きがあり、精神的ダメージを与え尊厳を損ねる恐れがある。多少原義から外れるようであっても、また医学的に厳密な意味では正しくないようであっても、当事者の心情を優先する姿勢で別の言葉への置き換えを検討する。

(これは「schizophrenia」を「統合失調症」、「dementia」を「認知症」という原義からは外れた言葉に置き換えたことと同じような趣旨である。)

#### 【注意すべき点】

「奇形」を含む医学用語は様々な医学分野で用いられているばかりではなく、歯学分野・薬学分野やその他の生物学的な学問領域でも用いられ、また一般的にも浸透している。そのため、日本医学会の全ての分科会で十分な議論を重ねてコンセンサスを得ることに加え、関連学会やマスメディアとも連絡を密にとっていく。

混乱を避けるために、当座は「奇形」を完全に別の語に置き換えるのではなく、これまで通り「奇形」を含んだ語を併記する形を取ったり、臨床現場で用いることが多い用語から検討を行ったりするなど、柔軟かつ慎重な姿勢で臨む。ただし、例え当事者の前で用いなかったとしても、その用語が医学用語として普及している限り、当事者がインターネットなどで目にすることも考慮しなければならない。また、単なる「言葉狩り」のような動きにならないようにも注意していく。

#### 【置き換えの原則】

「奇形」を含む医学用語は非常に多いため、以下の原則に沿って、個々の用語の置き換えを検討していく。

1. 「奇形」という日本語が充てられることが多い以下の用語について、原則的に右側に示す日本語を充てるようにする。

anomaly	先天異常、先天性〇〇異常、異常
deformity	変形
malformation	形成異常

(註：「形成異常」という日本語が充てられている英語用語に「dysplasia」があるが、こちらの日本語は「異形成」を代表語として差別化を計る。)

代替案)

「奇形」の置き換えとして、字数も音節数も同じである新語、「違形(いけい)」を充てる。

2. terato- を含む用語については、それぞれ以下のように置き換える。

teratoma	奇形腫	→	テラトーマ
teratogen	催奇形因子	→	胎児毒性因子
teratology	奇形学	→	先天異常学

3. 臓器名や人名に続いて「奇形」が置かれている用語については、以下のよう  
な言い換えをする。

○○(臓器)奇形	先天性○○疾患	
(例：先天性心血管奇形		→ 先天性心血管疾患)
◎◎(人名)奇形	◎◎病	
(例：Arnold-Chiari 奇形		→ Arnold-Chiari 病)

4. その他の用語の置き換え例

dysmorphology	奇形学、異常形態学	→	ディスモルフォロジー
---------------	-----------	---	------------

5. 以下の語は置き換え候補がまだ十分定まっていない。取りあえずの例を挙げ  
ているが、学問的に定着していることと臨床現場で用いることが稀であること  
から、置き換えないという選択肢もある。

teratogenesis	催奇形	→	形成異常誘発	または	形成異常発生
			または		催違形
teratogenicity	催奇形性	→	形成異常誘発性	または	催違形性
major anomaly/malformation	大奇形	→	大異常	または	大違形
minor anomaly/malformation	小奇形	→	小異常	または	小違形

【文責(2016年12月5日)】森内浩幸  
日本小児科学会用語小委員会委員長  
日本医学会医学用語管理委員会委員